



申12号「電気部門の変革2022について」に関する解明交渉行う!

2月26日交渉

【明らかになったこと(要旨)】

【電気部門の新たな新幹線体制の確立】

①組織等の見直し

- ◆首都圏新幹線電力技セ(仮称)、首都圏新幹線信通技セ(仮称)は大宮近辺を検討中だが運行本部により近いのが望ましい。計画されている新庁舎には在来のみ。
- ◆メンテナンスセンターについては、現存する箇所に加えて電力では田端、信通は上野(現在の信通技セ)と新たに小山への配置を予定。信通の大宮メセは機器等あるので駅に近い箇所が良いと考えている。田端は在りもあるので別に田端周辺の箇所を考えている。小山新設は幹車セがあるので配置する。詳細な場所については次年度の第一四半期には示せる。
- ◆首都圏技セの配置グループは現時点では企画・管理G、総務G、安全指導・保安G、専門技術Gは電力は電路技術・変電技術、信通は信号技術・通信技術で検討中。現在の機械PTは保守用車に関して恒常的な業務と判断できれば「科」化も検討している。各PTについては業務量を見ながら必要な配置をする。
- ◆各メセの要員は業務量が飛躍的に多くなるわけではないので現在と同規模とする考え。
- ◆大宮信通からの新幹線への配置は、主は新幹線を担っている方になるが適正や希望なども見ていきたい。
- ◆大宮支社の体制変更は現時点ではない。新幹線業務が新幹線統括本部・技セに移行する。
- ◆今後、在は在、幹は幹で育成していく。信通の管理者の10条教育も分ける。
- ◆異動に縛りはかけないが、例えば大宮の方が家族の介護があるので盛岡にはならない。いたずらに遠方にといいことはない。
- ◆財産区分で特に個別で決めたいのは建物附帯箇所。柵内基準を考えると新幹線ホームは幹とか。新幹線停車駅の配電盤などは現場の意見を聞きながら決めていきたい。
- ◆発足する技セでは単契・検修工事の契約を行う。予算配布は統括本部。

②系統横断した技術者育成・配置

- ◆電力・信通とも1年かけて基礎教育。本社研修、支社研修を行う。支社研修では実践的な教育にしたい。業務に負担が掛からないように実施していく。電力の変電は保守用車も取得してもらう。融合はメセであり、監督員業務もあるのでその知識・判断力を養っていくことが大事。

③検査体系の見直し

- ◆直轄化は電力における変電所のみ電用遮断器・切替開閉器で保巡・個別をやってもらう。30個程度のボリュームで平準化して実施していく。信通については変更ない。

④宿直の実施

- ◆信通の上野メセは宿直体制を行う。過去に上二運で事故あり、その対策としてやっているが引き続き宿直体制をひく。曜日でTEMSも入っている。技セ助勢も含めた体制にする。